



五五

七福神
歌人
衣冠

和歌三神
源氏獻
器物

五歌仙
拍撲

五



畫筌卷五

目錄

七福神 しちふくじん

川渡布袋 かわわたふくろ

和歌三神 わかのさんじん

梨壺五歌仙 うりかめごうたせん

天神 てんじん

渡唐天神 わたらうのてんじん

大井川筏士 おおいがわのわかし

佐野渡 さののわた

布引瀑布 ふりひりたふた

井出玉河 いでたまがほ

夕顔 ゆがわ

須磨 すま

明石 あかし

夕霧 ゆがきり

三夕 さんゆが

牧笛 かきふえ

加茂競馬 かものけいば

鞠引 まじりひき

雷公 らいこう

万歳 まんざい

放下 ふたし

腕推之戲 うでおしあそび

碁盤操 いごばんず

膺推之戲 うでおしあそび

曲太鼓

相撲之圖

楠正成

武田信玄

上杉謙信

冕冠

冠

烏帽子

條帶

革帶

裾

曲領

腰被

紳

天衣

壁代

十二章

袿

袴

袴

太鼓

敲鉦

如意

寶珠

輜車

榻

笏

武者全圖

同後之圖

武具彩色法

菖蒲旗

人體

并

好色春畫之法

畫卷卷五目錄終



畫卷卷之五

七福神

昆沙門



畫卷卷之五

筑前直方

林守篤編輯

辨財天

緒天傳より



曾房筆

大黒

大黒天 大黒天 大黒天



入子に朱をまくお笑うと

壽老人



揺出七十歳筆

夷神



福祿壽



福祿壽 老人と云ふ 天の極老 星の精

布袋



布袋



揺出法印一筆

和歌三神

倭人物



住吉

玉津嶋



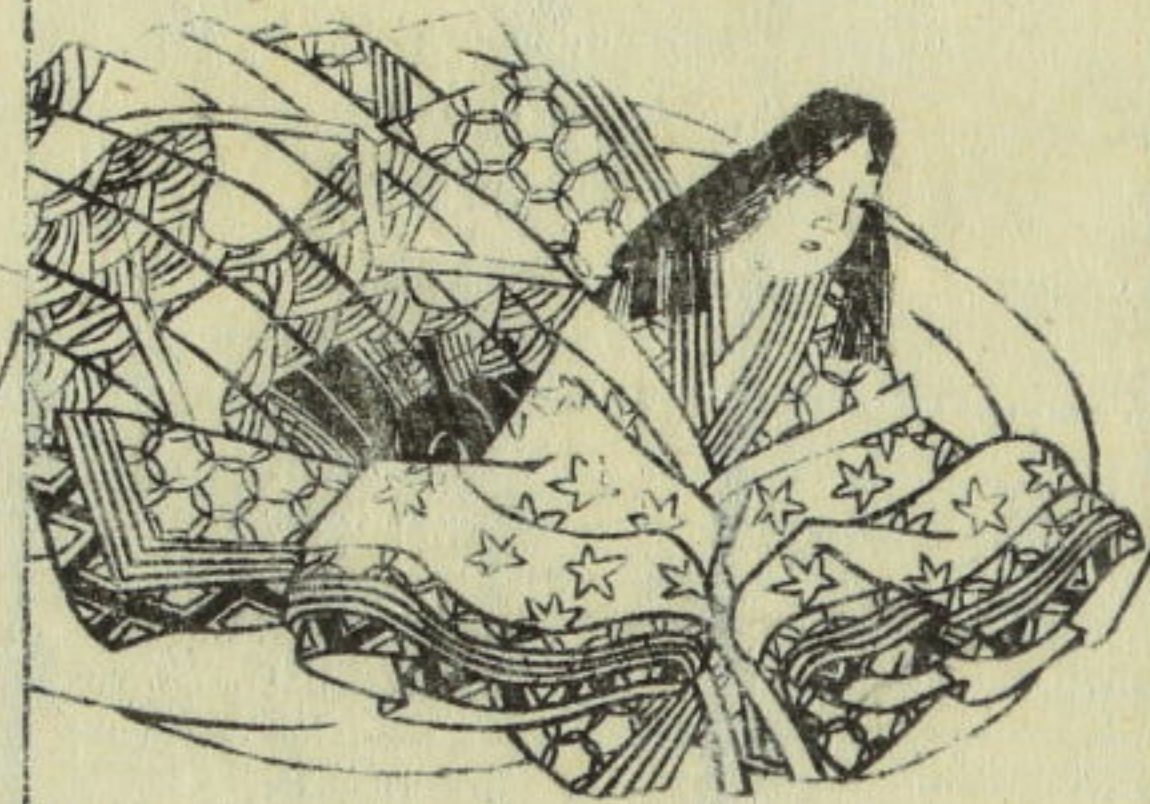
畫巻

畫巻

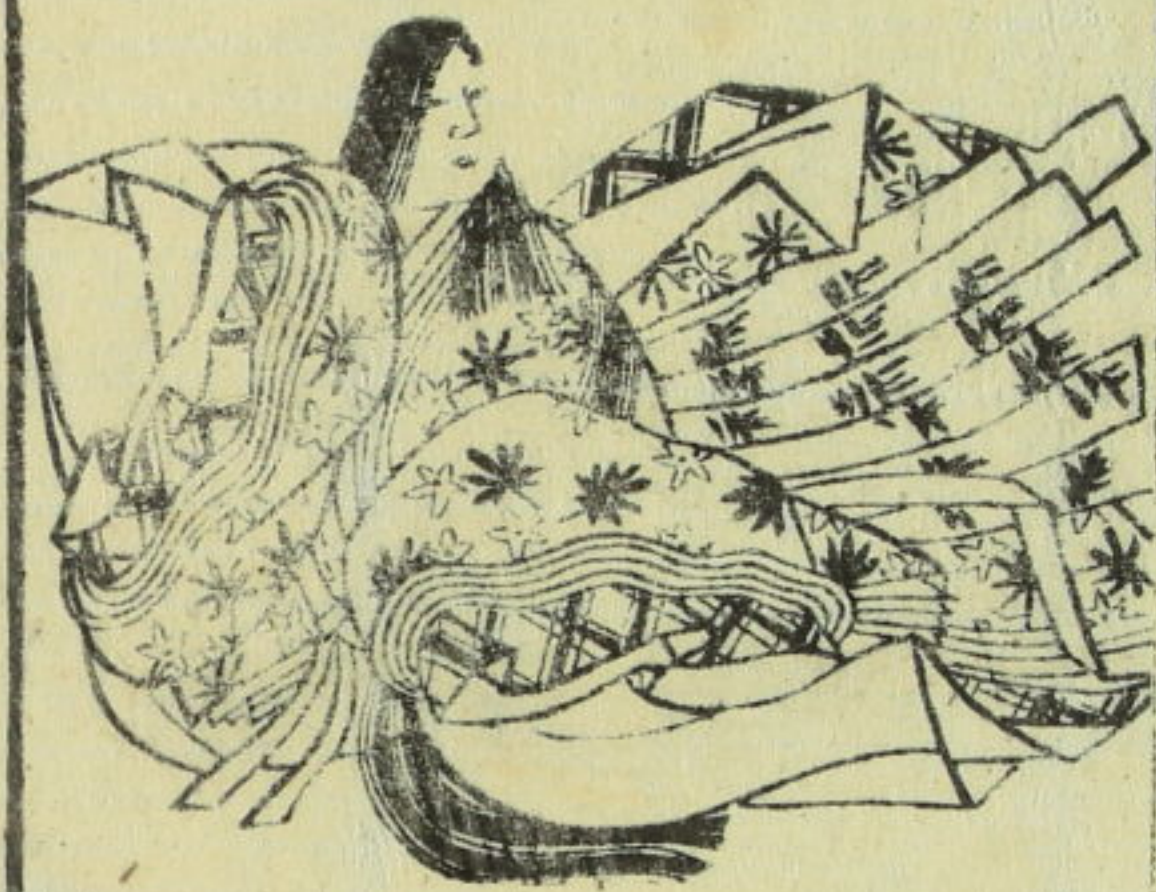
天_{てん}満_{まん}天_{てん}神_{しん}



馬_ま内_{ない}侍_し



和_わ泉_{いずみ}式_{しき}部_ぶ



元信筆

人_{ひと}喜_き



渡_{わたり}唐_{たう}天_{てん}神_{しん}



伊_い勢_{せい}大_{だい}輔_ほ



紫_{むらさき}式_{しき}部_ぶ



梨_り壺_か五_ご歌_か仙_{せん}

赤_{あか}深_{ふか}衛_ゑ門_{もん}



谷子... 山... 谷... 山...



守備

佐野渡

平... 山... 谷... 山...



佐野河



布川の陣

兼平

桃田橋

井ノ口

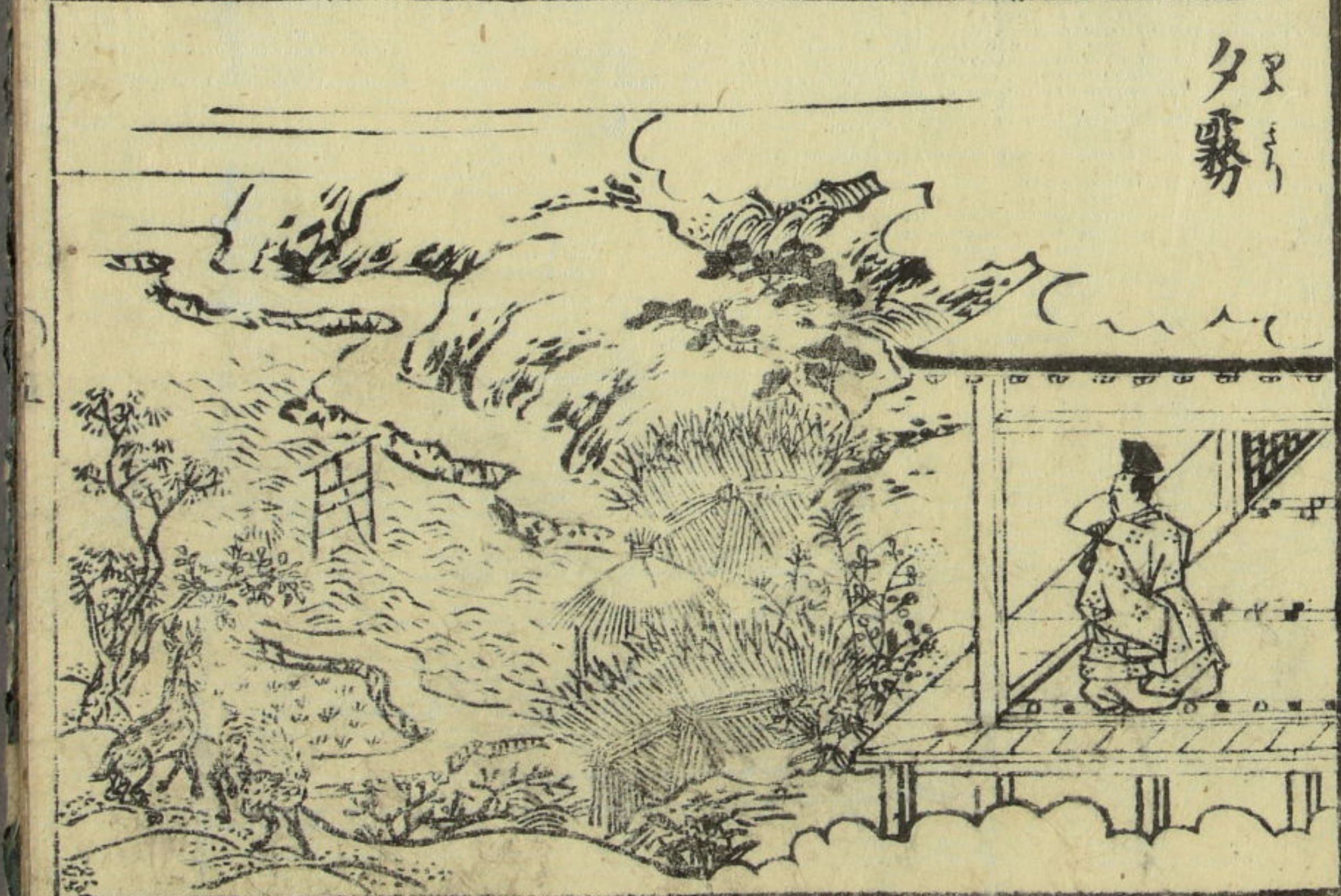


俊成

谷... 山... 谷... 山...



明石



夕霧



夕顔



須磨

三



西行



定家

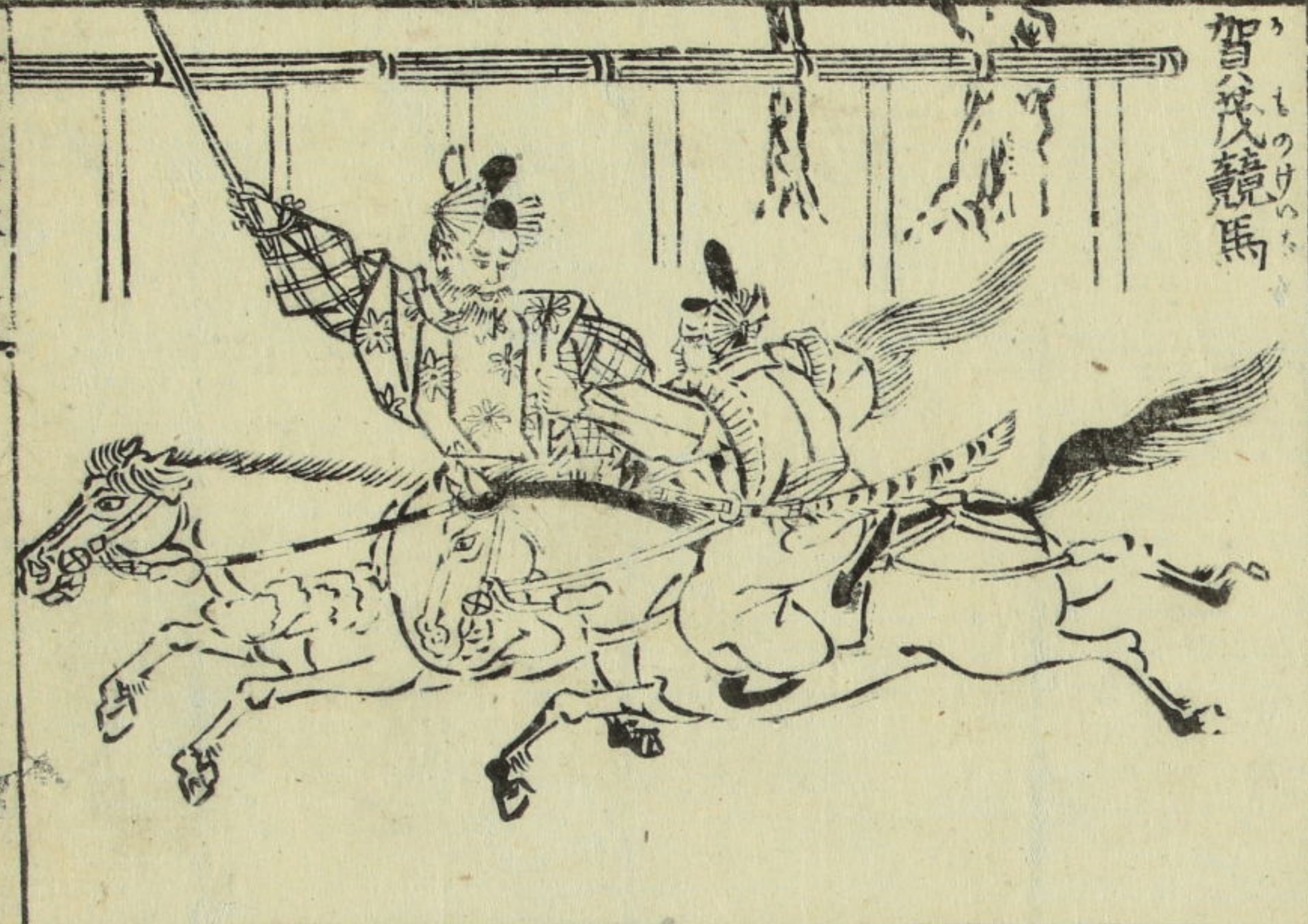


寂蓮



三

加茂競馬



朝引



三保松屋

三保松屋

之の腕推
之の截



之の腕推
之の截



曲太鼓



碁盤操



雷公



土佐光信筆

放下



柳栄筆

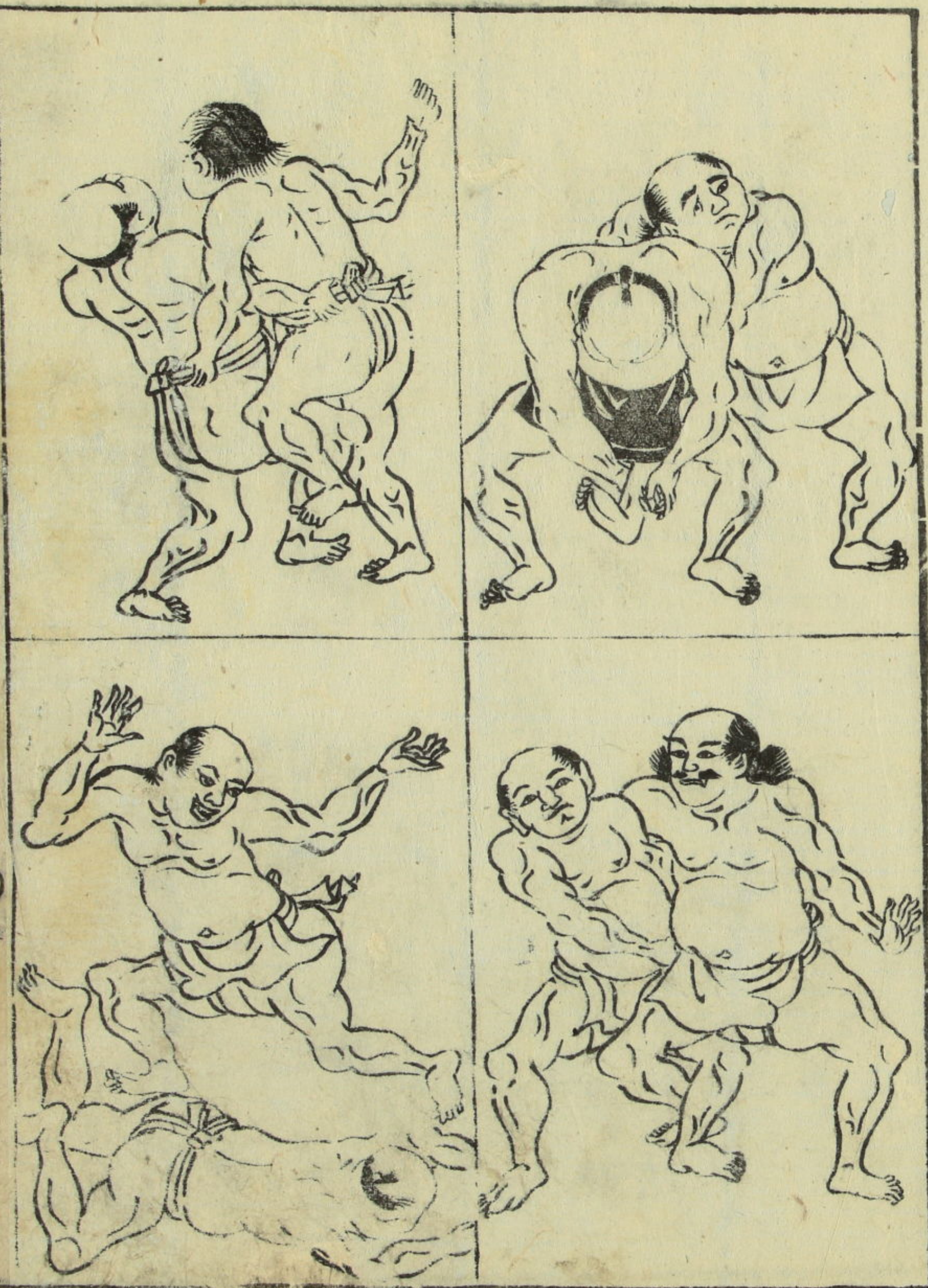
萬歳



保琳筆

相撲

書卷之三



書卷之三

楠正成



殺ハ菊水

上杉謙信



武田信玄



殺ハ苦

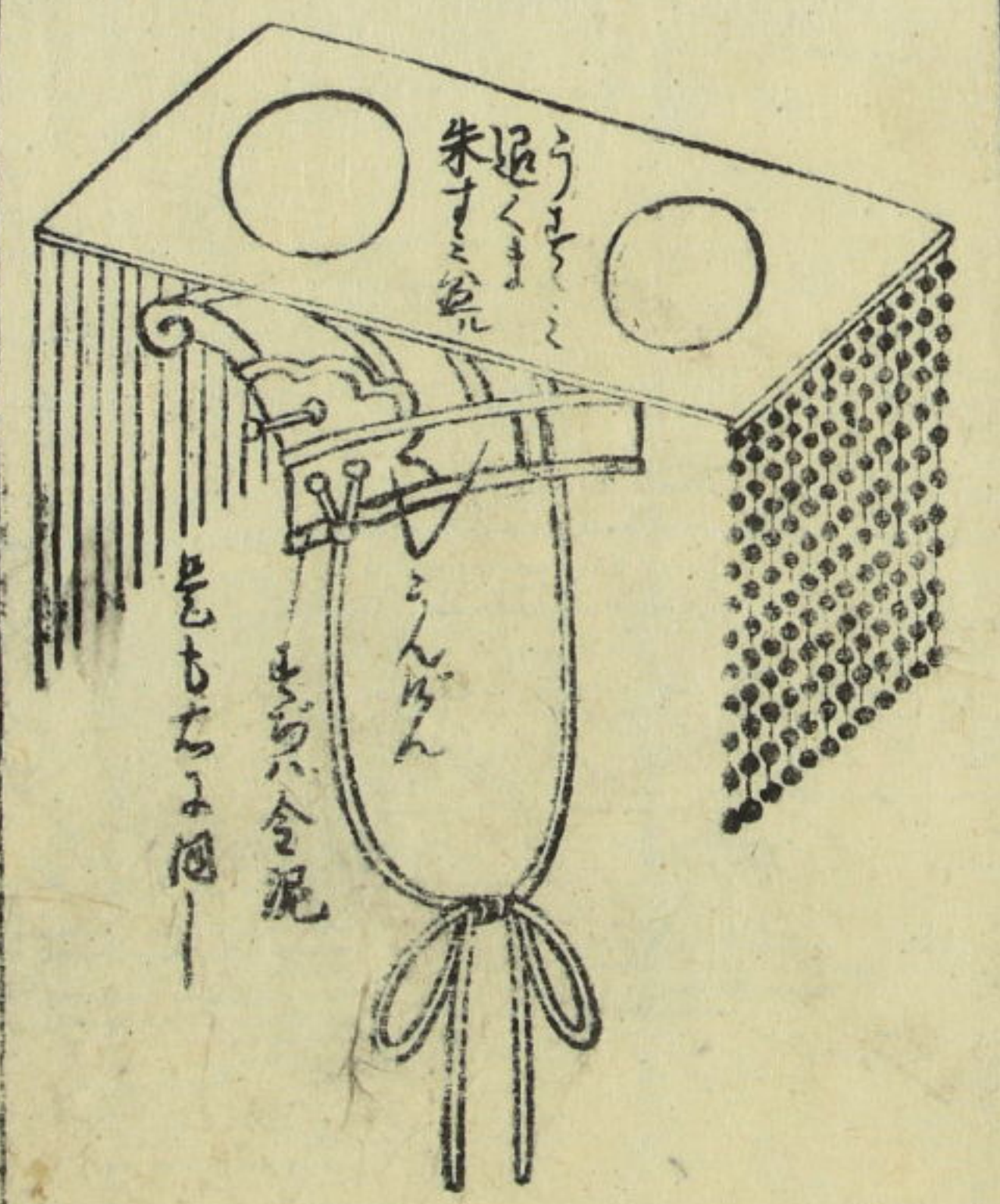
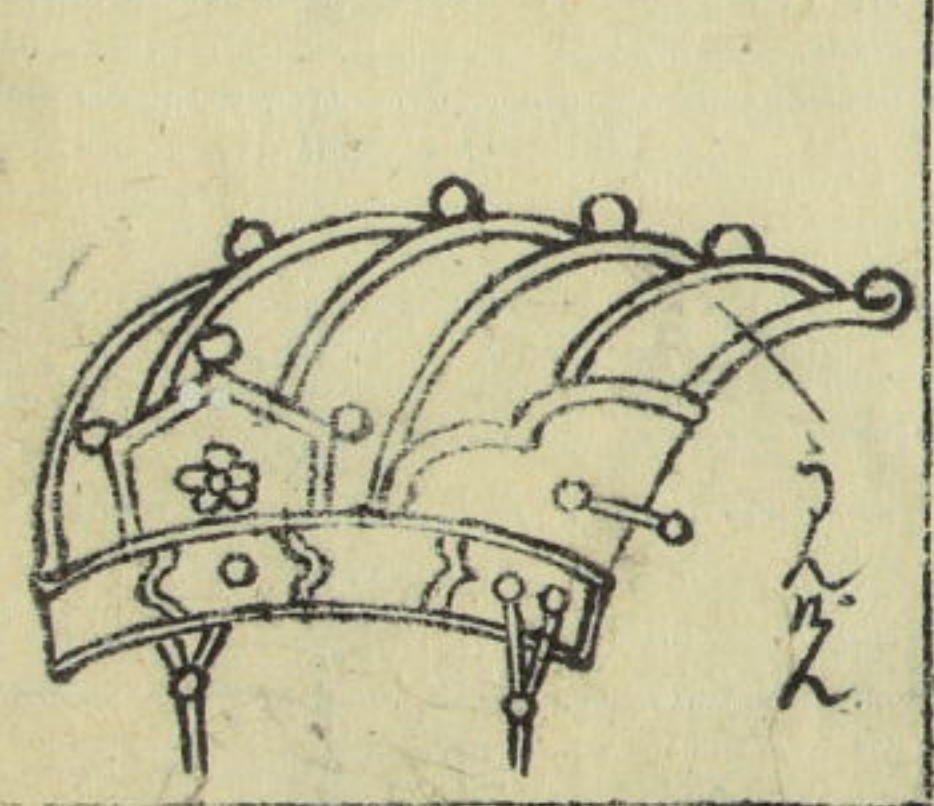
大關秀吉



冕冠

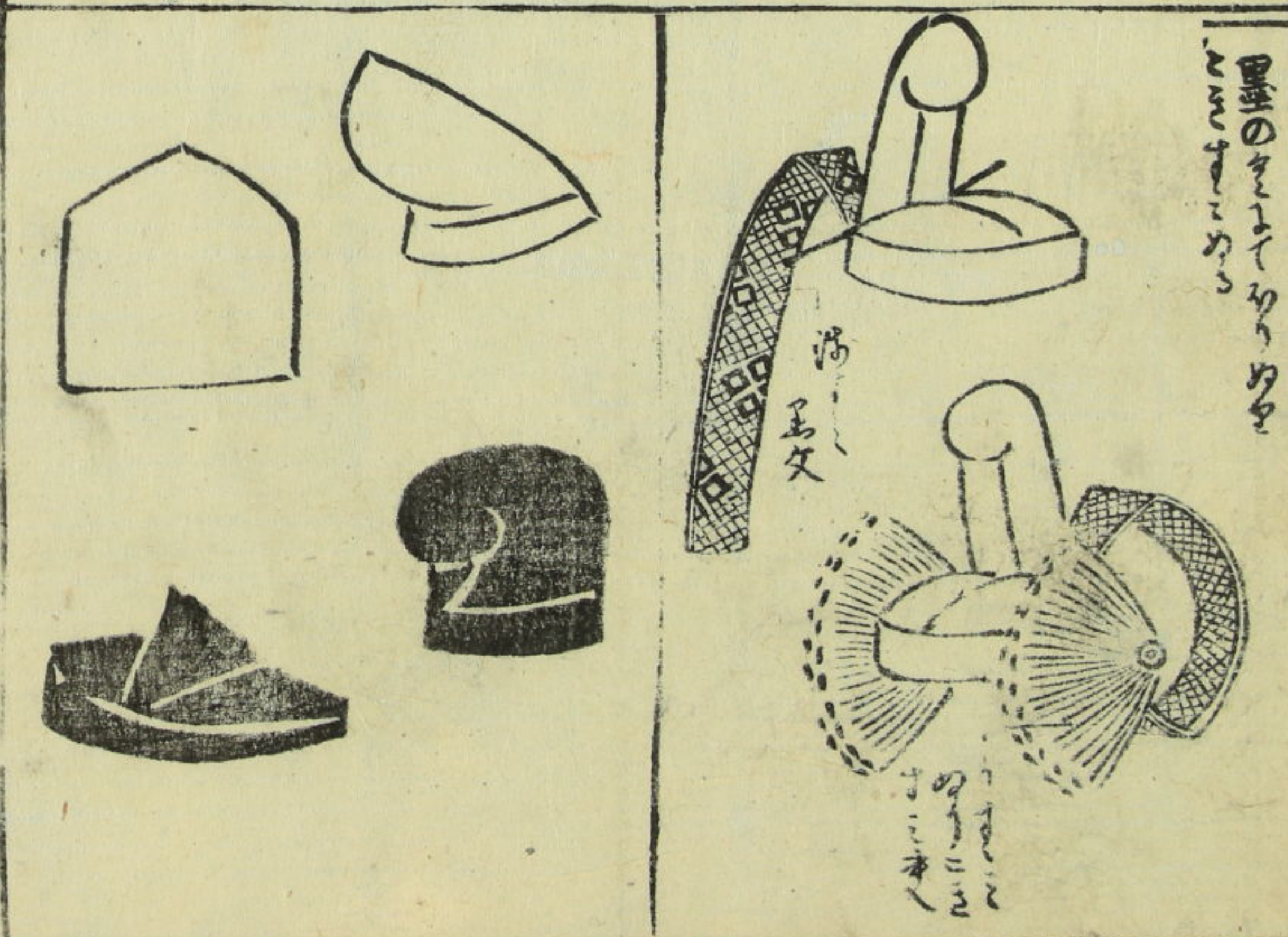
にまのこうり

板と以て作るおほは、櫻格と
まゝと流と云十有二也四時
十二月は法る礼記天子ハ玉藻
每流各十二玉玉の間おと一寸
流の長と一尺二寸毫て肩ハ齊し
公ハ九玉九寸侯伯ハ七玉七寸子
駝ハ五玉五寸天子の玉ハ五采朱
蒼黃玄白上よりして下り角
て復始ふ公侯伯ハ朱白蒼子
男ハ朱緑白流ハ古く



冠 日本

古ハ織物縫物等々天武天皇
 公系漆塗の紗冠と著は髪と帽
 物と巾子と云其後より物を
 羅云云及よき物と纏と云
 亦支那と掩地と纏と云是と
 貫く物と弗と云
 烏帽子
 紙といは製衣漆をぬる上た
 物造とた折と云は後世著
 太折造と五位といは折衣の
 時ハ烏帽ハ今世侍従公系
 の諸といは纏と云なり



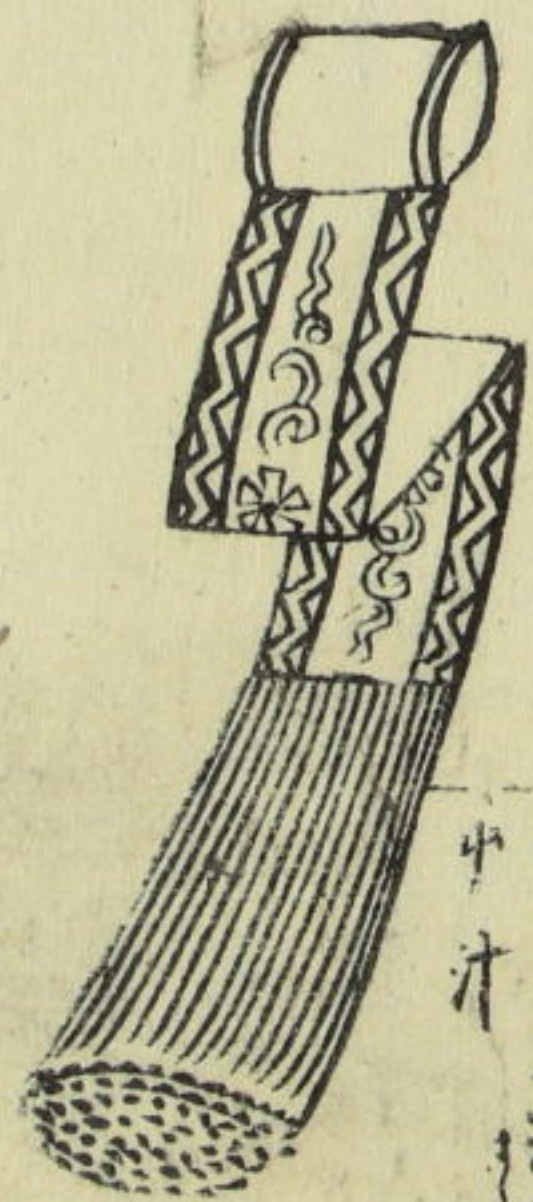
條帶 或ハ綾

畫家子平帯と云師乃曰
 中ハ家ノの紋とく或ハ
 蔓草とまへ一古畫多クハ
 緋と緑乃彩あり

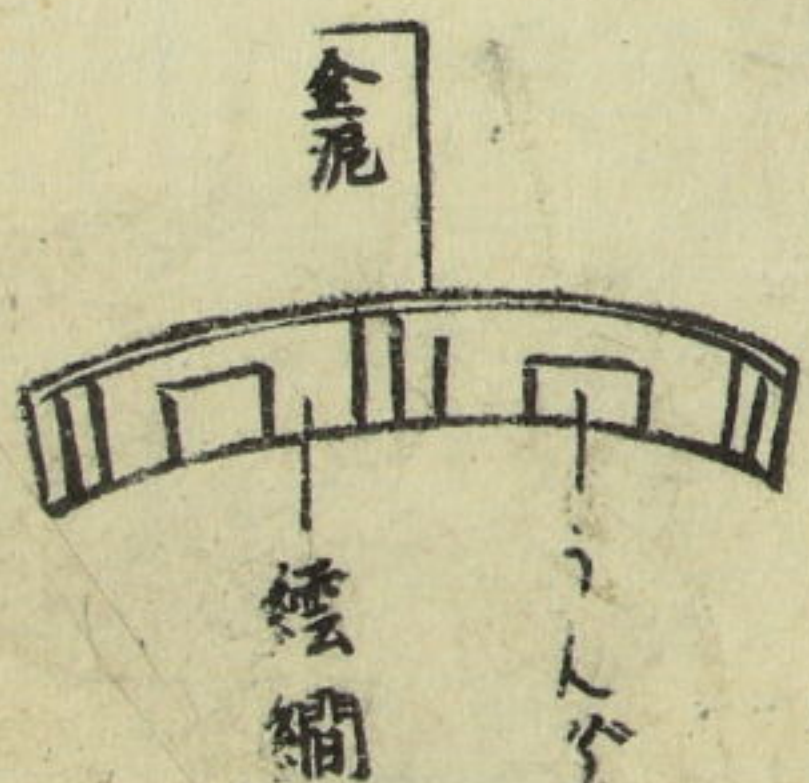
革帶

平帯ハ紐子通して帯ハ
 名牛さの角まで四角切
 く綴つを是ハ裾と括と
 毛くハの少共ハ紐子ハ也

或曰金

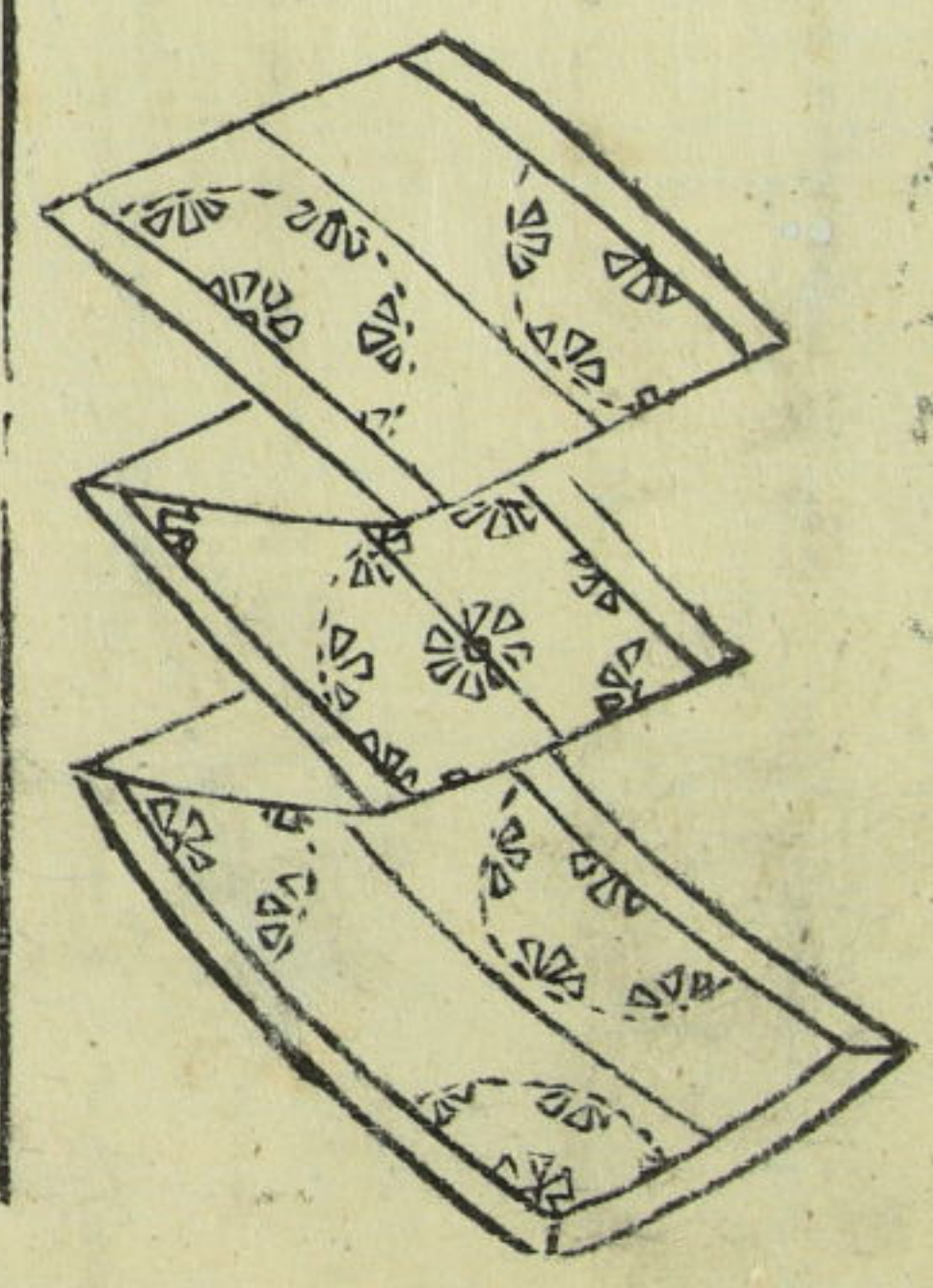
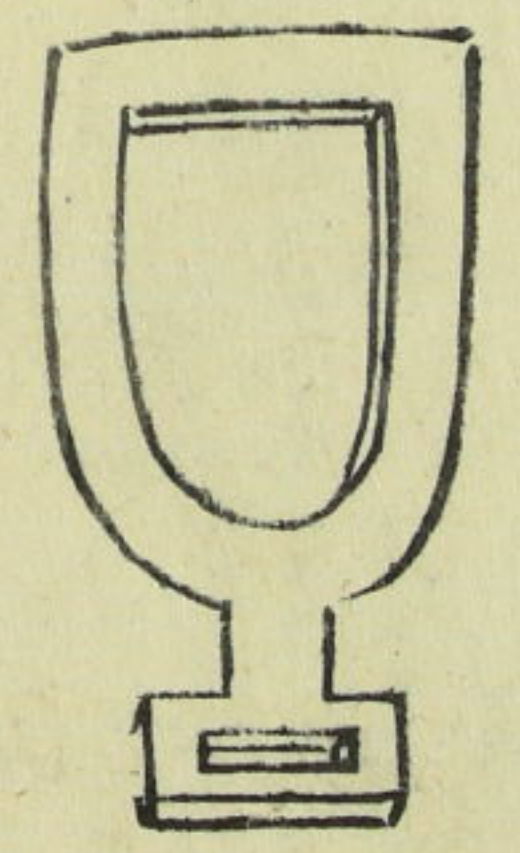


地之の附ハ
 わさき多
 或ハ金。緑の
 竹ハ白六或ハ
 中ハ



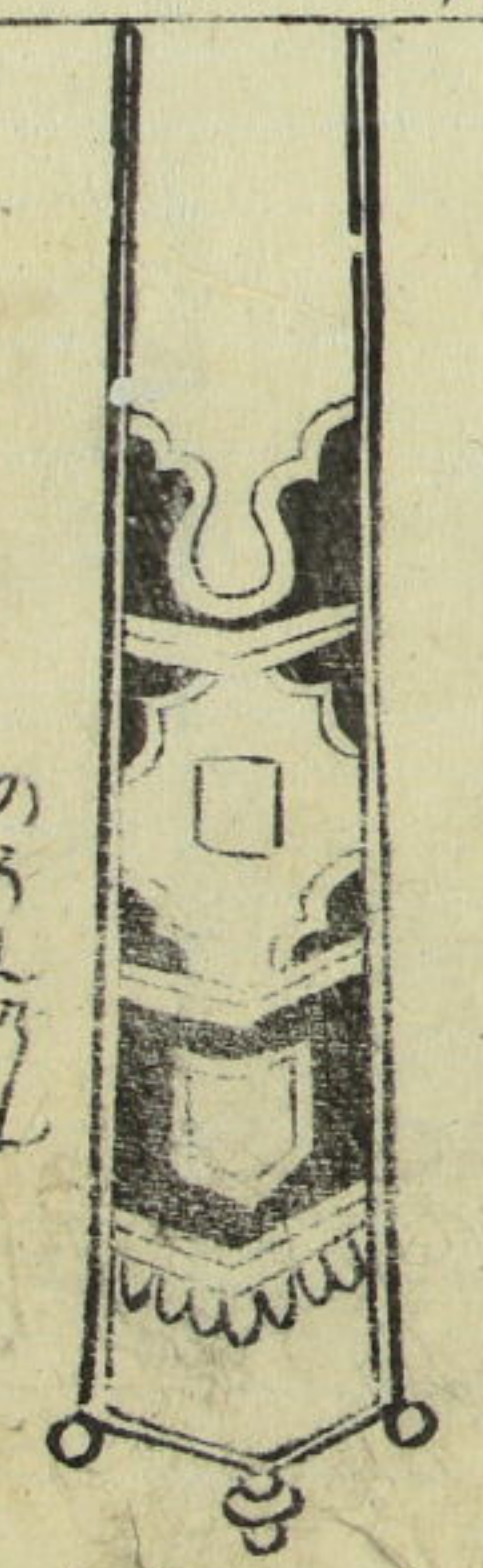
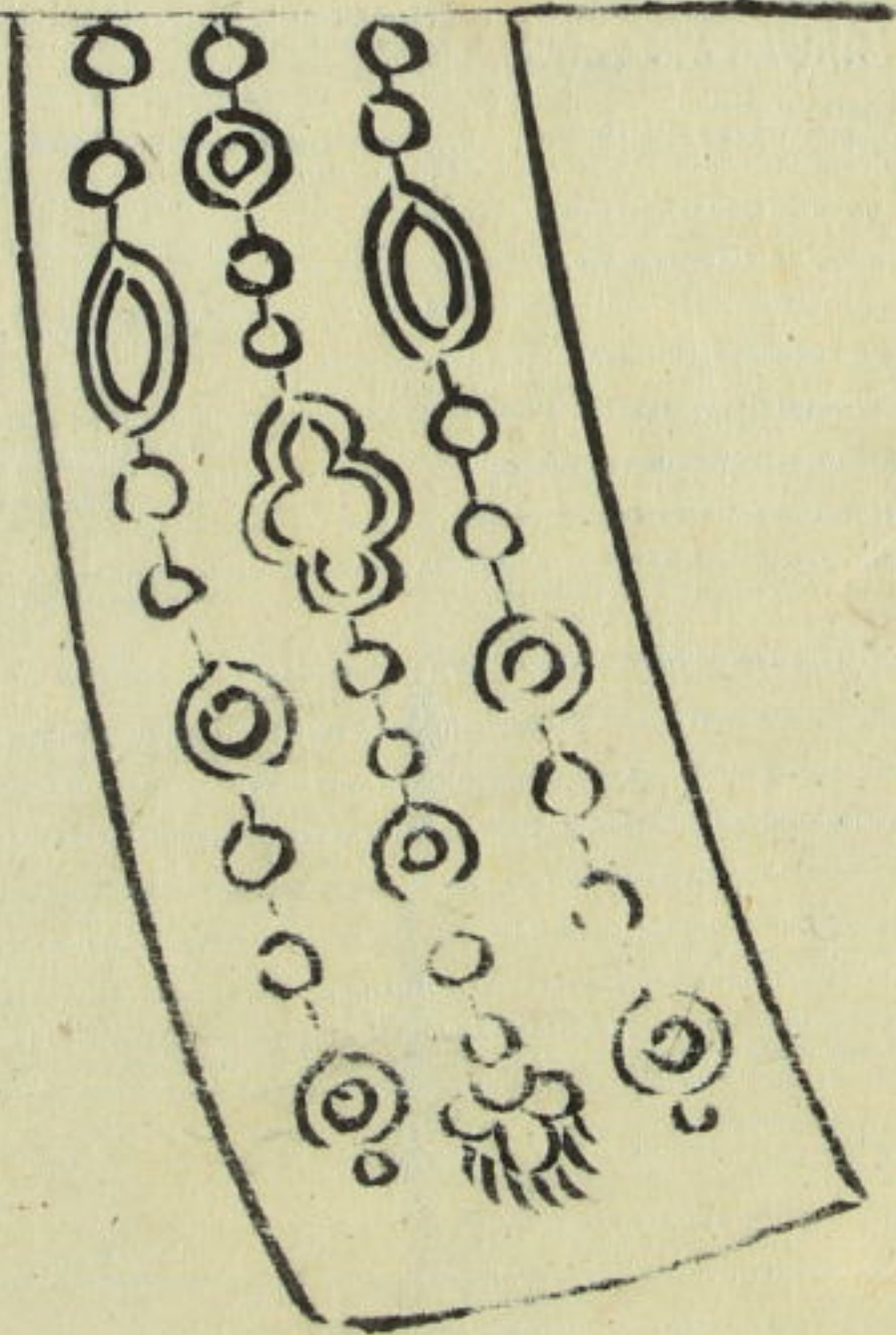
裾すそ まぬのあり

古畫多く蛤粉と以て洗ぬり
 同く括くわ或は退のりぬり曲まと
 消し銀泥ぎんじと以て紋いざなを書
 ても裏必ず肉色にくいろ。袴ハ蛤粉
 までぬりて銀泥ぎんじを章あざと
 虫石席むしし或ハ鳥とりとりささ寫かし
 曲領まがね
 方心曲領かたこころまがねハ三才圖繪さんさいずゑ子
 見みててししりりここふふんん淺あくくぬぬりりま
 おれおれれくく
 括く敷し



腰こし襖あはせ

夢ゆめ彌や曰い今いまのの裾すそ帶おび珠たまと其
 上うへにに綴つりり懸かへへ。羅山らざん曰
 裾すその上うへにに繫くりり帯おびなりなり師し曰
 白しろ緑ろくのの具ぐでで金かねががふふんんのの施せと
 ひひくく圈い中ちゆうハハ金かねとと紺こん朱しゆ緑ろくを
 ををぬぬりり
 紳しん おかしき
 白しろ緑ろく具ぐとぬりぬり蛤粉かまををぬぬりり
 茶ちやとと虫むしハハ全ぜん泥じををぬぬりり四よ色しき茶ちやのの汁じゆ
 退のり塗ぬりり或あるハハ先まへのの取とりりん
 けけんんこことと一いっ色しき一いっ定てい
 ちちくくすす

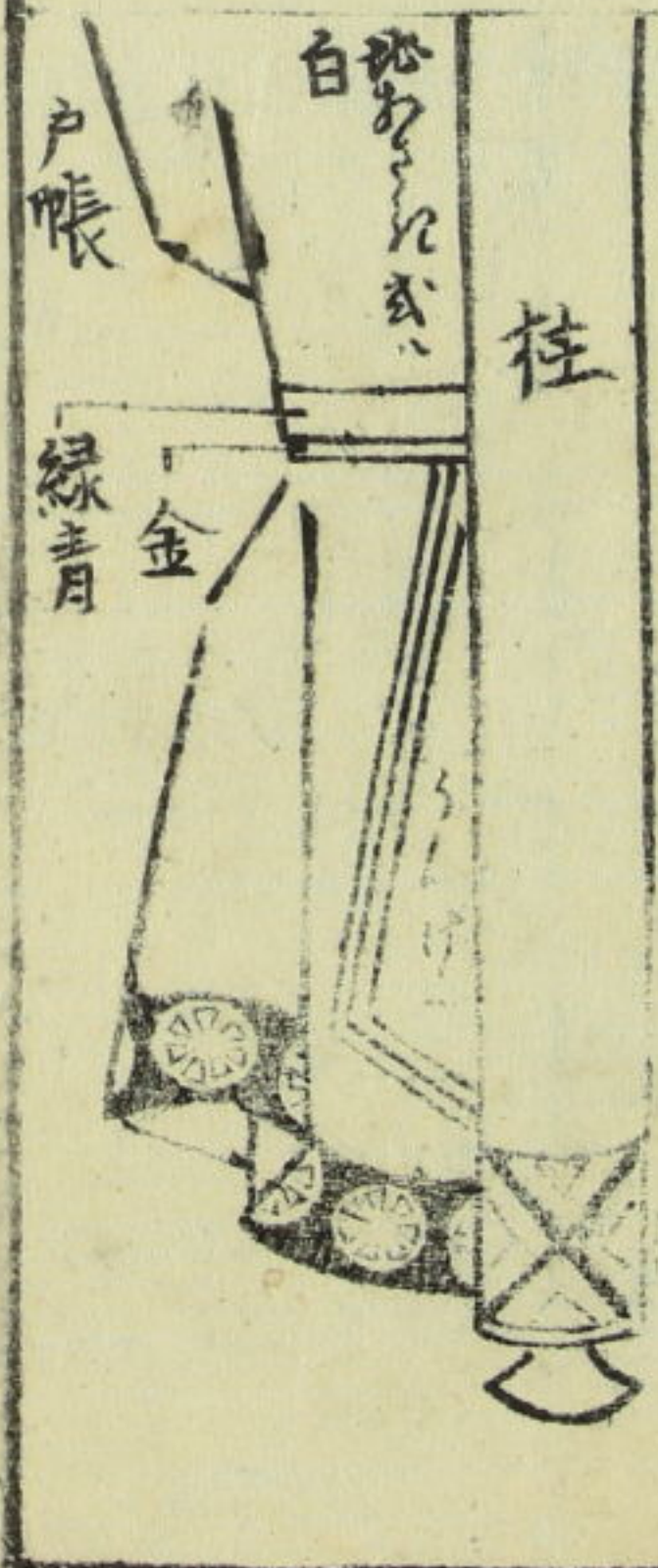


天衣

官寺或ハ善落等の之月ノ掛
余ノカ等レ知ルモノトイフ其
之品ノワリ緋緑紫土朱茶
或ハワリニケルモノトイフ
合泥まじりノ
壁代
彩ハいろノマシケルモノトイフ
漢宮かんきうと申スルノ彩いろノ
あり

日本ノモノ

あや

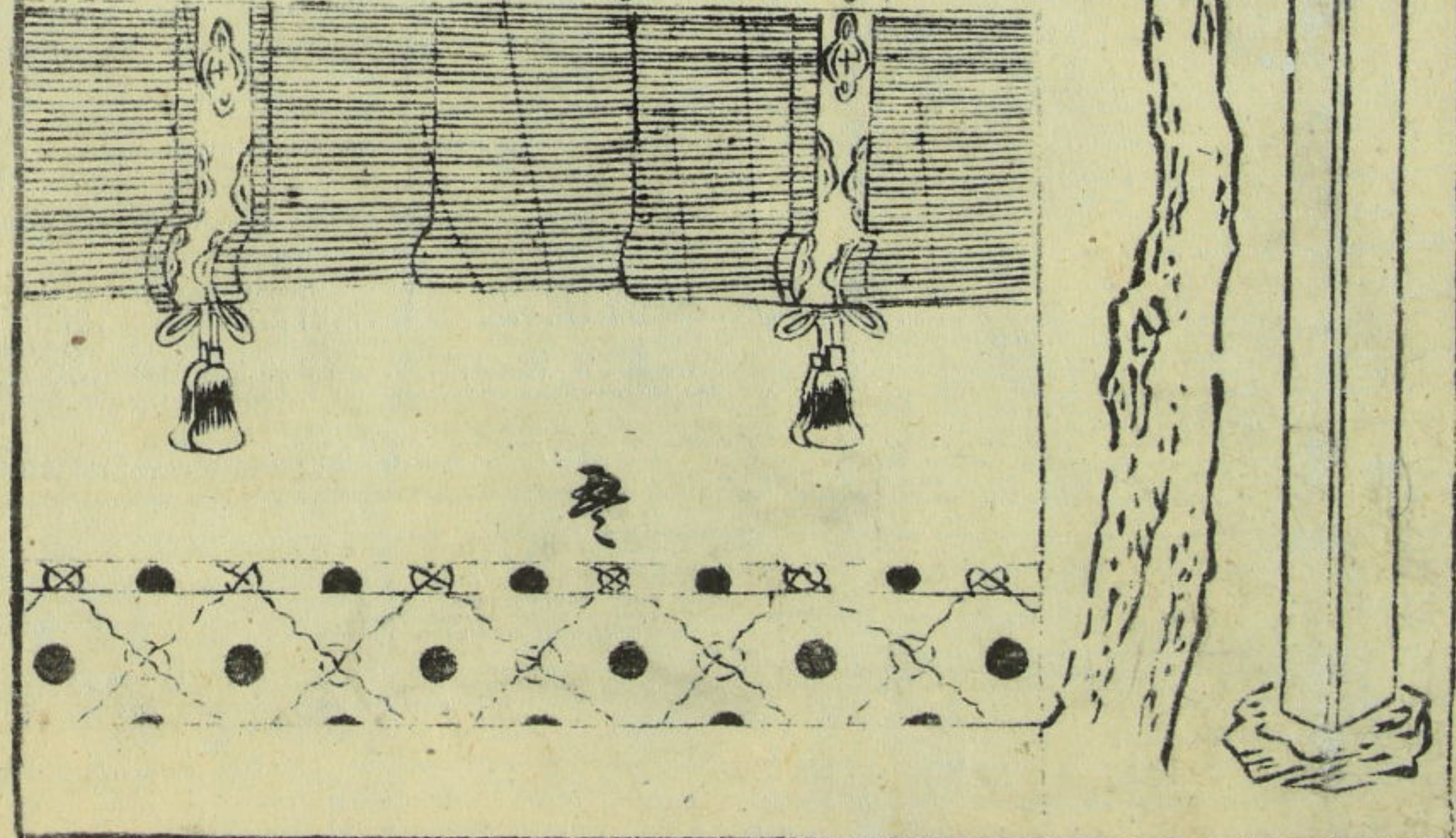


十二章

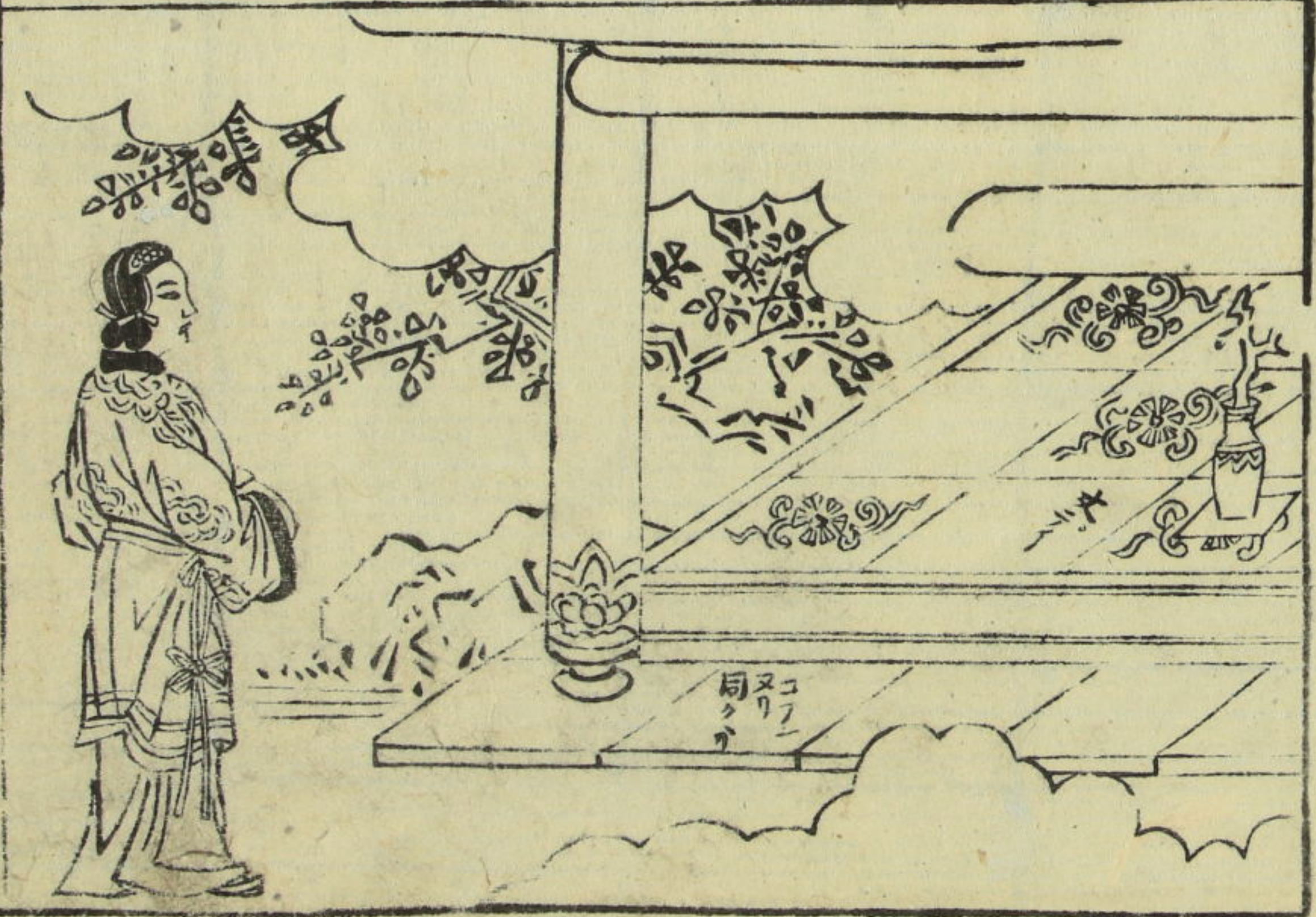
日月星辰山龍華虫雉六の
物ハ是ト衣ノ於テ其序上ノモノ
して下ノ宗彝藻火粉米
黼形斧黻形兩六のモレ也ト
裳シロノ繡其序下ノモノト
上ル今ハ火と宗彝トハ衣上
○日月星辰ハ其照臨セウリントイフ
山ハ鎮チント取ト龍ハ變ヘンヤ華虫ハ
文宗彝ハ孝藻ハ水草ソウゾ也
火ハ明粉米ハ養ヤウ黼ハ断タンヤ
黻ハ辨ヘンヤ繡ハ絳帛キョウヒツトイフ



よくくまより胡粉をく掛
 実珠何れもうしけんこに
 七〇輻車比を白線と敷
 少く加てぬる或白さより敷黄と垂の
 加すを不加に比塗れ上は常汁
 といふ紋を掛むらとこか合てうと
 こくと挂或黄を車の浅黄やと去ま
 是臭なりぬる深黄ぬる挽本すの
 総朱常れはは出―帛いふんすもれ
 方法朱の浅黄久成朱この色は〇桶
 こふく深黄の罰〇笏皮色敷黄土を



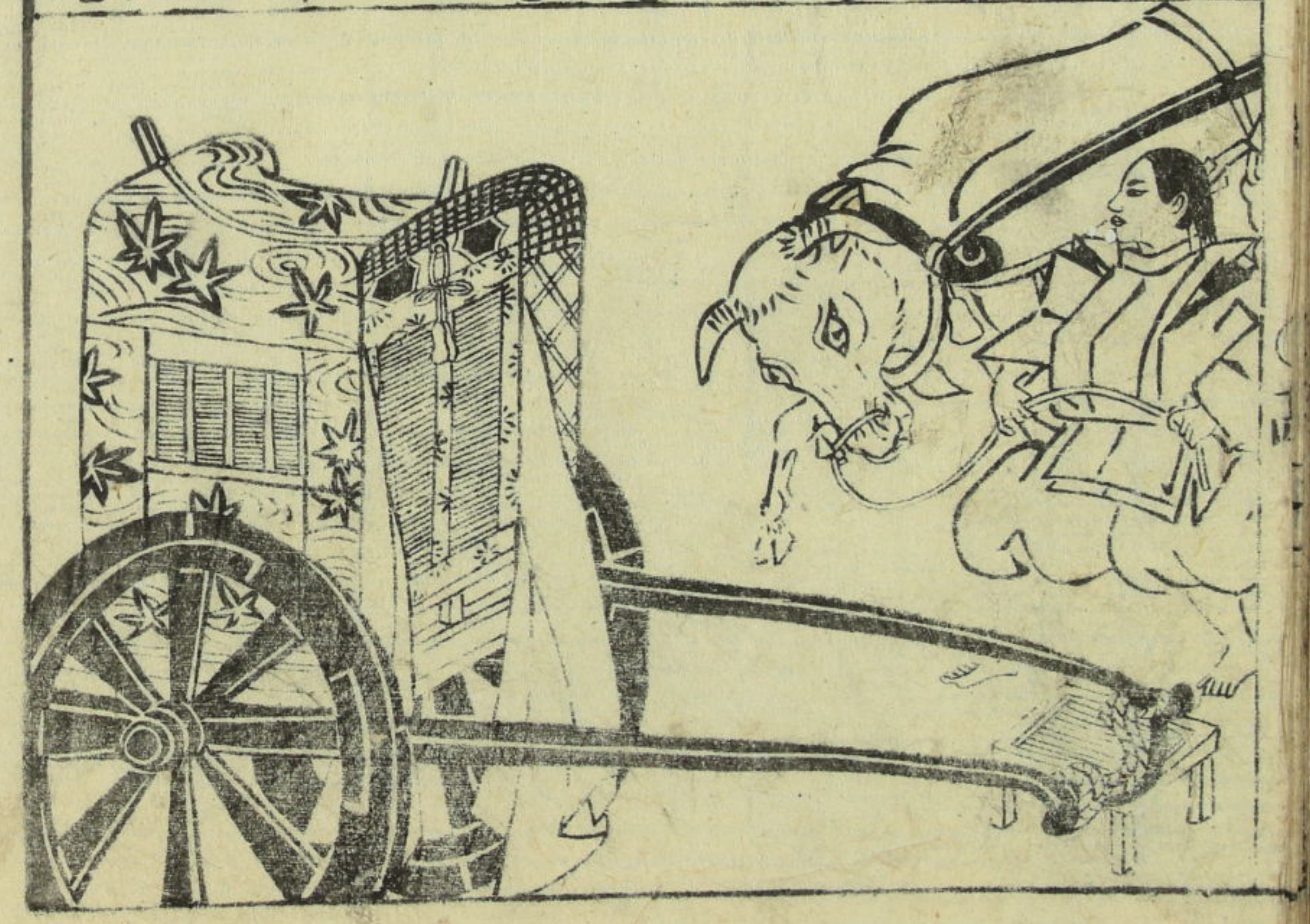
〇席縁を或白強ふ若黄少
 加塗縁比と明粉まてぬる臺支
 と虫或青海波と虫或は黄と虫
 狸洞た〇庭土具或合黄土
 宋すみあめと虫こと又同
 〇葦屋合黄土の雨より朱と虫
 今檐の周の點々よれ〇瓦屋
 浅黄くまねわいらう挂或縹細
 彩ぬとま〇檜皮菅朱と虫
 少くぬり檐の方へとせ筭又の如く
 黄少すより多う檐周の浅黄塗



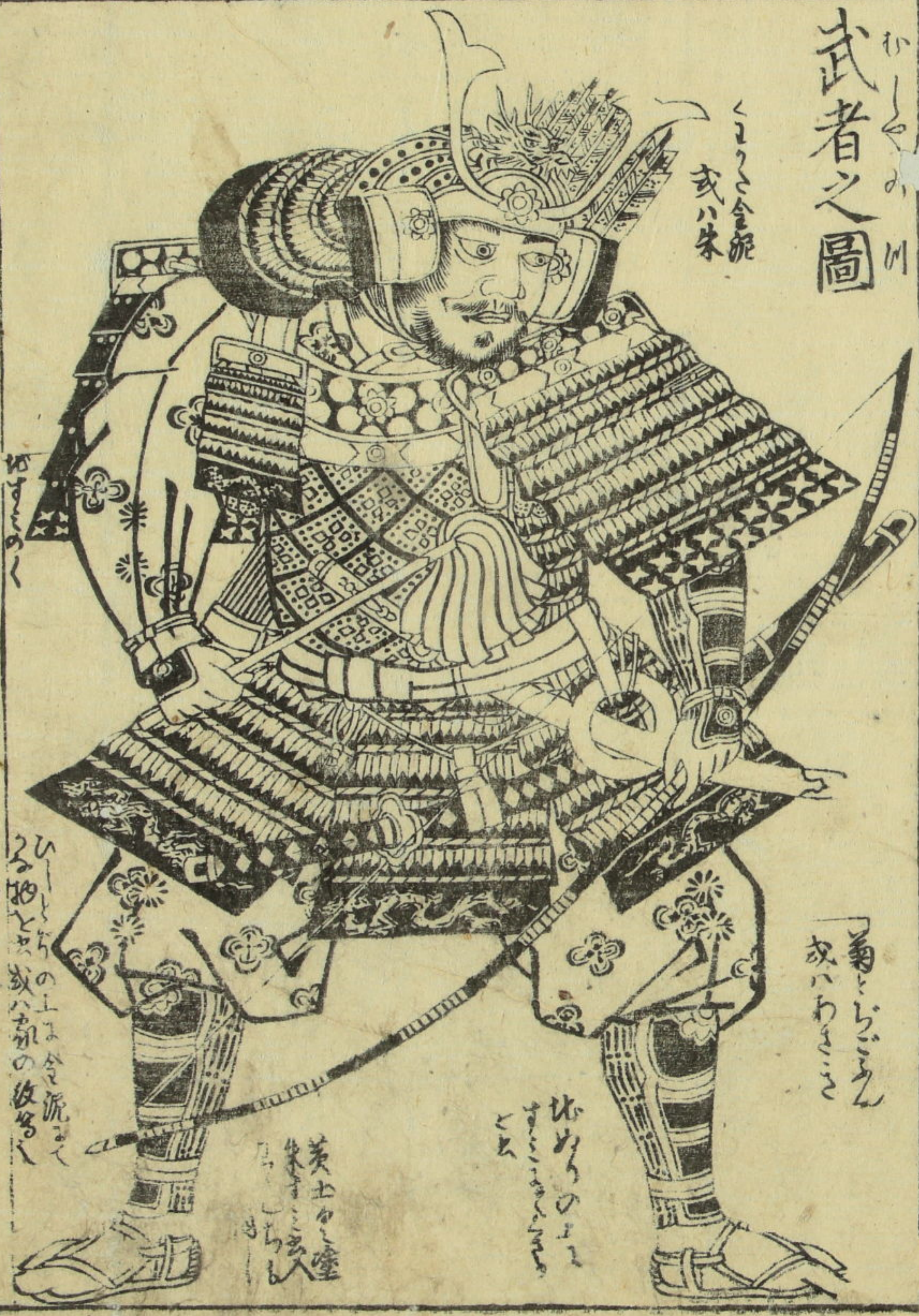
○磚こゝろ乃のぬく去て同と隔て淺は也
 とわりあいら総あいら括あいらりあいらもあいら代あいら集あいらをあいらるあいら或あいら比あいらとあいら涉あいら
 葱あいらにあいら去てくあいら一あいらるあいらこあいら一あいらにあいら去て集あいらとあいら集あいら
 或あいら比あいららあいら去てぬあいらりあいら胡あいら粉あいら子あいらてあいら括あいらもあいらあり

簾すだれ

地ちとち白しろ六む子こ者もの矣なり少すく加くへく塗ぬて
 上うはは二に線せんをを用もちてもち界かい入いりりとと物ものと
 鬼おにのおに身み或ある中なか汁じゆああくくととままへへ一いつ線せん
 何なにももとと塗ぬるる章あきらハハ木き瓜うりをを外ほか
 何なにももとと去くへへ一いつ編あむむるる糸いとハハ朱しゆに
 てて所ところくく竹たけ第だとと者もの矣なり少すくににてて星せい



武者之圖



くまの金泥 式ハ朱

菊の紋 或ハわらわ

此の紋は 朱の紋に 似たる

美土の 朱の紋に 似たる

いふ所の 上は金泥 朱の紋に 似たる

甲冑 畫家子描之彩、所のちれ多しす。○緑まをり
 中の汁とらと去。○緋青よりまじりたる群青。○朱より
 調脂褐も同く或全。○赤黄より乾殿。○黒より漆
 或、緋の方と赤をぬり曲れけす。○藤黄具より褐、蛤
 粉、銀泥。○調脂具より生、熟、脂具も同く。○氣、逆、脂、六
 令泥。○凡、漆の腹、半、より黄、土、をとり、茶、汁、よく、攪、を
 本、紋、の、中、子、朱、緋、熟、脂、等、よく、中、入、り、又、蛤、粉、の、そ、の、輪
 を、星、は、ひ、き、お、ら、せ、佳。○曹、吹、返、と、眉、庇、は、黄、土、を、と、り
 紋、半、と、し、他、一、定、あり、す。○筋、金、多、ハ、泥。○黄、泥、ハ、朱、と、漆
 して、作。○木、或、の、漆、子、ハ、総、角、あり、庸、上、ハ、櫻、子、著、り、け
 同く。

○四家の外と、源氏黒平家紫原萌黄橘黄也一家
 の統領、あれを用ひ。○緋系子、因て、と、被、く、色、と、以、て、名、を
 稱、し、古、乃、鑑、た、た、の、脇、不、鎧、受、の、板、と、ま、もの、を、右、乃、脇、子

- 小神五とら
- 緋威也
- 紅周ハ、あ、ろ、乃
- 系、ハ、火、威、也
- 朱、子、ぬ、り、小、札、乃
- 銀、紅、乃、系
- 直緋威、朱、子
- し、く、紅、中、系

武 者 後 背 圖



○糸緋威 金銀の小札の系 ○赤真威 小札の系
朱の系 ○崩黄系 ○山吹威 玉の系 ○金掬の系
金の札の系 ○小梅威 塚木の系 又白の系
白の系 ○赤の系 ○白檀威 全白檀の系 ○紫藤威 此系の系 ○紫の系
乃系の系 ○白の系 ○藤系威 淡紫の系 ○塚木威 合の系 ○桐麻の系
梅の系 ○草草威 赤の系 ○黒草威 玉の系
玉の系 ○空色威 玉の系 ○玉の系

金の札の系 ○洗草威 鯛丸の系 犬荒目の系
淡葱の系 又洗草の系 ○洗草威 惣小札の系 又全
小札の系 ○段の系 ○肩の系
頭威 胸の系 又玉の系 ○肩の系
と白系の系 ○肩の系 ○肩の系
肩の系 ○白系の系 ○品の系 ○品の系
子塚木の系 ○揚梅桃李の系 濁の系 ○白系の系
子威の系 ○間色の系 又玉の系 ○緋の系
○金の系 全小札の系 三の系 ○紫の系
○玉の系

紺 五折して下二段を緋に染みぬ。○ 霞濃 緋の色を濃く
染み下と濃く 右を外板染みと云ふ。〇 死

違ぬに

総角 色を朱までぬり丹まですらすら此朱の平色をす。

主位の袴は長きと云ふ。同具をて物事

強腰當 黄玉をて塗朱を垂て括らすすらすら

扇 片面の地を朱ぬりて金の月輪をぬり又片面の地を

して朱の月輪をすし要は丸して中は腕貴の宛を

緒の長六寸骨八寸或十六寸ある上骨の平骨を

透ぬり透の名を祿こましく云

簪 下羽の製作は中葉と同じくは或は白糸幣八串を

赤簪の時の木比と羽の腕貴の緒乃穴とし串の骨より三
寸並てわく魚一筋の穴に串れすより七分或寸法
の紫草 草蒲草 草乃類をびつ三分線貴の法に
お緒の色定らん紫の針のすし一長三寸六寸五分
柄より三寸二分並て結ぶ魚一一方乃短ハ一寸二分

草蒲旗

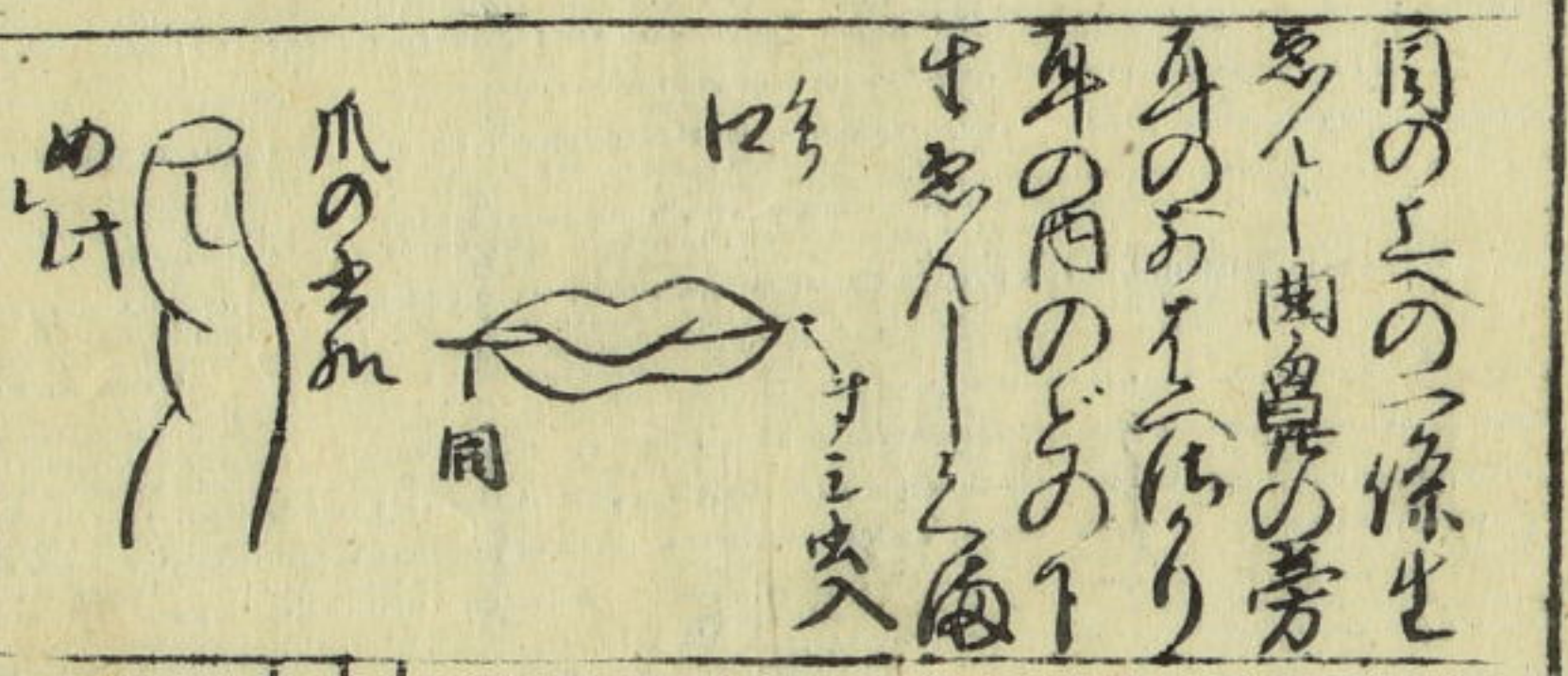
瑞午比 尺小児の戯は旗をつまみまきと云ふ。帛と漆部ハ
紙に描く乞と旗繪と結ば先鶴亀松竹を描く鶴
の淡墨をて虫おんを用ぎて、鳥の淡墨曲よりて
凡のわりと陰馬のわくをぬりて一は中瀬の吉人形と
描り一面の具を塗らるる合費土よて曲より朱を

してくるとして鎧武者やさしは若狭掃部とて薄巻若ぬり
 札は一帯のつゝよ本願一或裳を氣無脂をせぬり或は
 赤うあいらう等の水垢をてそふしれ髪縷を
 始より角は孔をあけて墨母丹を入る是皮の皮
 らうかとか外本彩のおくすか一帯もされら
 づらふまゝ

人體 好色 春畫之法

師の曰え人の癖よ曲をとして顔の圓をてさり
 がおわり皮膚をぬるを面鼻と稱しおもしろ丹をまきて
 加也老人は丹をまき一中年は丹を増壯をまき粉を
 やらぬ若ぬりさめおしく海より同くくくる或はあまことわい

ことあり美か
 どもよ人をぬり
 生をんてえのよ
 とくはしてとまれ
 丹をんてとまれ
 括る小肌をさい
 丹は丹少生肌
 おかやぬる面い



法橋友元筆

くはとれまぬ鼻の旁耳のお髪胡のある起平の内候の下
 胞の上下顔わくさくとして低とて人合を約あし○髪は玉具を
 ゆりて又深く雲ぬり前を曲りてさして毛半をとする○白髪

淡墨にて毛と半づらんを淡くぬり添えて半入の湯の
顔 淡墨とぬりしは乾澁をくぐる或は淡葱とぬる○月顔
わすれた白色○は朱とぬりしはゆりて中とびしくぬりけは
又左右の畔より雲と一跡半入○月 烏珠を添て書く書
又添て墨にて縁をぬりてその中心より畔をぬりしは添
墨と一跡して墨しぬまぬくすれぬやいり烏珠の弁とぬ
ふんよてぬぬる上 賤はぬらすしよてすく下 賤はうすし
よー○眉 官かかとの敷へくろ眉とするは桐麻の油と
紙燭つくとぬりて陶器敷の網をぬり乾く字を以て添
つけ周を掃消金○美今の面吾家の定法あり
鼻が長く上 賤はぬぬふたりしは及官あり下 賤は半入

くさくさい鼻の半入り耳の方より鼻を心かく鼻とは
との間も遠くぬりしはよー○唇 男唇肉をこめてぬりし
差の如きは朱墨と掛回しくぬりしは頭へ朱の
黄白色にてぬりしは軟○鼻 肉をこめてぬりし生るし
ふてぬりしは或は透脂臭気を生るしトクも用ぬ
婦女の老若に随くし色をぬりしは尻の上より
横文一條をぬりしは○陰毛 淡墨にてぬりしはぬりし
よして細毛をぬりしは○盡 精液ぬりしは銀泥とぬりし
○春盡を必十二尾尾ぬりしは禁塗獨断は天子ハハ一は
十二女とぬりしは十二月ハハ象とぬりしは

盡卷之五終

